

項目	委員意見のまとめ
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●誰のため <ul style="list-style-type: none"> ・全ての人 ・ゼロ歳児～高齢者、外国人、障がい者 ・受益者、アーティスト、表現の担い手(市内で活動する個人、団体含む) ・施策の影響は市内(市民)に留まらず、国内外へ ●何のため <ul style="list-style-type: none"> ・人づくり(市民文化政策)を行い、まちづくりに繋げていく ・生活の質の向上 ・支える・享受する機会 ・文化芸術施策の継続性 ・変化の激しい社会の中で、文化芸術の在り方の変化を明記
理念	<ul style="list-style-type: none"> ●感性や品格を育む ●創造性豊かに ●未来志向、新たな時代に対応 ●子どもや若い世代に重点を置き、持続のための文化芸術の重要さの認識や理解形成を促す ●文化芸術が高齢者・子ども・障がい者・外国人等全ての人の権利として保障されている ●生活環境の中で自然に触れられるようにする ●生活の質の向上(QOL) ●まちのアイデンティティ ●有機的に繋がっていく
文化の範囲(何を)	<ul style="list-style-type: none"> ●文化芸術の範囲 <ul style="list-style-type: none"> →広く捉え、絞らない ・メリット:社会情勢等の変化による各分野の重要度や範囲の考え方への影響に対応可 ・デメリット:具体的に何を対象としているのかわかりづらい
対象(誰に向けて)	<ul style="list-style-type: none"> ●全ての人 ・ゼロ歳児～高齢者、外国人、障がい者 ・受益者、アーティスト、表現の担い手(市内で活動する個人、団体含む) ・施策の影響は市内(市民)に留まらず、国内外へ
役割(主体)	<ul style="list-style-type: none"> ●市民 ●行政→表現の自由、住民支援(個人への文化芸術の機会提供)、財政支援 ●団体→特に文化団体は内部活動だけでなく、他団体や市内外の団体と交流を深める、輪を広げていく ●多摩市立複合文化施設(財団)→市民が誇れる施設、求心力、魅力発信
どのように(実現するための仕組み)	<ul style="list-style-type: none"> ●財政、資金 ●計画 ●推進委員会、振興会議、審議会等の計画立案・評価機関の設置 ●表現の担い手を支える仕組み(新しいチャレンジを支える仕組み、外部のアーティストも含め繋がり活性化していく)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ●多摩市らしさ ・子どもたちを中心に据えた未来志向 ・多摩市から外部へ文化芸術を発信 ・有機的に繋いでいく

【多くの意見があったワード】

- ・子ども(ゼロ歳児含む)
- ・継続性
- ・具体性
- ・創造性
- ・全ての人の権利
- ・本物に触れる体験
- ・生活の中で自然に触れる
- ・担い手
- ・資金の確保
- ・人づくり
- ・生活の質の向上(クオリティ・オブ・ライフ)

【委員意見等からの留意点】

- ①多様な視点で考える事②対象はゼロ歳児を含め、高齢者・若者・外国人・障がい者など幅広いこと③文化芸術の振興・推進のために、どう後押しするかを具体的に進めるため、計画や財政的なことを考えること
- 誰にとってどのような後押しになる条例なのか、わかるようにする
- 全ての市民を公平平等に多様な参加をあらゆる機会につくっていく「市民文化」と、都市の個性をつくるための選択と集中を行っていく「都市文化」、この2つを区分けして政策を作っていく。さらに人格形成、尊重という市民文化の実現も考慮する。
- 条例制定時等、市民に広く“自分にも関わりがある”と伝わる工夫をする

【ワークシート】

役割(主体)	
どのように(実現するための仕組み)	
特徴	